

～豊かな心と確かな力 瞳輝く寒川の子～

寒川町立旭が丘中学校

研究テーマ：深い学びが展開される授業づくり ～生徒の見方・考え方を深める問い～

1、実践の目的

「主体的・対話的で深い学び」という言葉を現在の教育現場で聞かない日はない。現代の子どもたちをとりまく環境は目まぐるしく変わり、様々な分野におけるICT化の波と共に日々変化している。そのような中で、現在求められているのは「何を知っているか」という知識だけでなく「何ができるようになるか」「理解していること・できることをどう使うか」ということであり、そして、それらを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかにつながる。従来は、我々教師が「何を教えるか」という視点で授業研究を行うことがほとんどであった。しかし、新学習指導要領にも記載されているように、子どもたちの資質・能力を育成するために「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「どう使うか」という視点から研究していくことが重要である。

そこで、本校では「主体的・対話的で深い学び」を達成するためにどのような指導改善が必要であり、どのような手立てを講じていくか、4年間研究してきた。4年目になる本年は「生徒の見方・考えた方を深める問い」という副題を設け、生徒たちがどのような状態になったら深い学びが達成できたと言えるのかを考え、そのためにどのような問い（課題提示）が有効的なのか、研究を行った。

2、実践の内容

(1) 研究概要

本校の校内研究では、早稲田大学教職大学院教授の田中博之先生に指導を仰ぎ、いわゆる「深い学び」を生み出す技法を取り入れ、研究を行ってきた。各教科において、どのような技法を中心的に取り入れるか定め、授業で「学びを深める問い」を投げかけた後に、その技法を用いた活動を行った。

また、その「学びを深める問い」を7つにカテゴライズし、どのような意図からその発問を考えたのか、系統化した。このような手法を用いることで、「深い学び」を生み出すことを試みた。



(2) 研究の体制

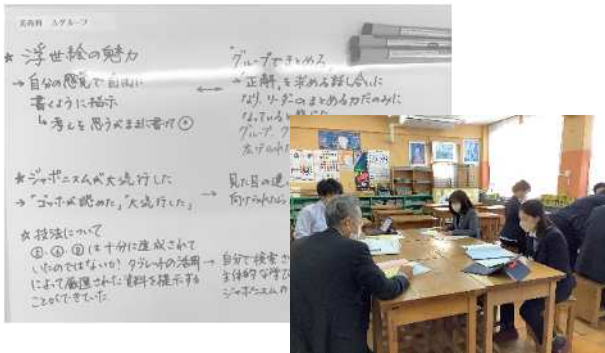
国語科(4名)、社会科(3名)、数学科(4名)、理科(3名)、保健体育科(3名)、美術科・音楽科・技術家庭科(4名)、英語科(5名)、特別支援教育(5名)の8つの分科会で構成し、各分科会代表者が行う研究発表会に向けて指導案の検討を重ねた。また、各分科会の中だけではなく、複数の分科

会が合同で指導案検討を行い、異なる視点の意見が出ることで、授業改善につながった。

研究発表会当日に公開授業を行わない教員も同様に指導案を作成して、校長、教頭や他の先生方に参観してもらった。

(3) 研究授業と研究協議の内容

研究授業は8教科、9会場、10名の授業者が行った。その後の協議は、司会者を立て『問い・課題が「深い学び」を生み、その手立てとしての20の技法は有効であったか』を柱として協議した。



3、実践の成果

(1) 教師の変容

単元だけではなく、長いスパンで物事を考え、授業の「流れ」をより考えるようになり、生徒たちの気づきを与えられるような場面作りを意識するようになったなど、多くの先生方の授業づくりに対する意識が変わってきた点がよく感じられる結果となった。「深い学び」を目指した授業を実際に行えるようになってきたと実感する先生も多く、校内研究が一定の成果をあげられていると感じた。

その一方で、「どうすれば効率よく授業づくりができるか」「深い学びをどのように生み出せるか試行錯誤している」などと、自信をもって授業づくりができておらず、不安を感じる先生も多いことがわかった。

(2) 生徒の変容

生徒たちは自分自身の力より少し難易度の高い課題に対しても、粘り強く最後まで諦めずに、取り組みを貫く姿勢を身に付けることができている。これは教科を問わず、どのような場面においても共通してみられる。

4、今後の展開

(1) 残された課題

全国学力学習状況調査では、自分の考えや根拠を示す力に課題が見られるが、これは本校においても同様である。課題に対して粘り強く取り組むことはできているが、自分の考えを順序だてて論じる力に改善の余地がみられる。「なぜそう思ったのか」「そう思った根拠はなにか」という自分の考えを表した、そのもう一つ奥にある一番大事な部分を表現する力が弱いのではないかと考えるべきである。

これは、教師がどれだけよい問いを提示したとしても、その力が育っていないと質の高い学習にはつながらないと考える。そのため、生徒たち自身の表現している様子を今一度分析し、どのような部分を課題としているか、もう一度考察する必要がある。

(2) 今後の研究の方向性

今後も「深い学び」をどのように生み出していくために、【主体的に学習に取り組む態度の育成と評価】、【深い学びにつながるICT機器の活用】、【自己肯定感を高める支援の在り方（授業での工夫）】の分科会に分け、各視点からの効果的でよりよい生徒の育成をめざした授業展開を目指していく。